

こまつ水門パーク周辺整備について

◆平成31年度当初予算編成について

Q 地方交付税は6億円の減額。消費税の引き上げと同時に法人市民税の引き下げ。幼児教育、保育無償化や、超長寿社会で介護、医療で増額。財源確保の見通しは。

A 工場の建設も多く固定資産税等も堅調で、歳入は堅調である。これからも財源確保に努める。

Q ふるさと納税は今年度2.9億円だが、31年度の見通しは。また重点事業の取り組みは。

A 制度がどうなるか読めないため、31年度は横ばいと考えている。こまつ創生総合戦略等を基軸に予算運営していく。

◆小松市はつらつとした地域とひとづくりの推進に関する条例について

Q 条例の目的は。条例の重みを鑑み、慎重にやるべきである。時期尚早ではないか。

A 人口減少や超高齢化など社会のあり方が変わる中、地域づくりを進める協議体を設け、一致団結して取り組むため。

Q 28年度よりモデル的に、はつらつ協議会を設立した5つの校下の実態は。

A 地域ワークショップを含め、問題解決の仕方などをやってきた。

Q 地域活動を行う新しい体制とその組織構成は。

A 従来の組織を一新し市民共創部をつくり、施設管理公社を小松市まちづくり市民財団に改めるなど行った。

Q 認定登録とは。また、予算額を含めて、財政上の支援とは。

A 有識者のアドバイザーで目標を定め、それを市が確認し登録する。活動費用などが必要になると予想され、内容に従って支給したい。

◆こまつ水門パーク周辺整備について
Q 進入道路が整備されていないため、わかりにくい。

A 案内看板の設置などについて、道路管理者等と協議中である。

Q 前川の堤防(右岸)の環境整備は。

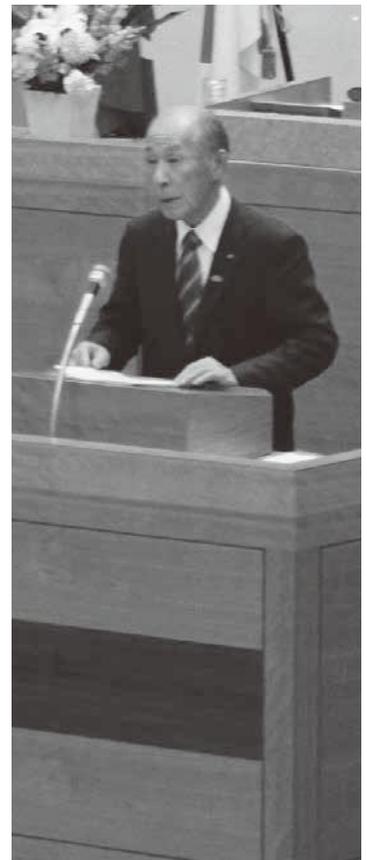
A 水辺空間の広がりが期待できるので、県へ要望したい。

Q この施設の管理運営は。利用方法は。

A 小松市まちづくり市民財団に委託するが、艇庫棟とトレーニング室は小松市ボート協会に管理を任せる。



3月にオープンする小松市梯川ポートハウス



◆北陸新幹線小松駅舎と周辺整備について

Q 高架下施設の構想について。

A コンコースと賑わいを生むプロムナード部分に分かれ、案内所や飲食店など色々な機能を含め、2020年半ばに完成したい。

Q 駐車場を含めて、駅東広場の構想は。

A 一般車、タクシーの乗降場に限定したい。駐車場は駅周辺に1065台あり、2025年には1300台必要と見込んでいる。

◆幹線道路、都市計画道路である幸八幡線整備事業について

Q 進捗率は。完成予定は。

A 全長3.520mのうち、残区間は950mである。国に来年以降の予算化を強く要望した。

◆都市計画マスタープランの見直しについて

Q 本市のまちづくりの課題と目指すべき都市像とは。

A 広域交通機能、共創などの8つのキーワードをもとに課題を設定し、小松の魅力づくりと交流推進をはじめとする6つの将来像を描いてまちづくりを進めていく。



南藤 陽一(なんとう よういち)議員

一括質問

産業振興について

◆人材不足の対応策について

Q 企業誘致は、新たな雇用を生み出し地域経済に活力を与えるものと考えますが、人材不足という問題が対峙している。このような現状の中で、企業誘致と人手不足のバランスをどのように考えているか。

A 経営モデルチェンジ支援事業等の補助策を設けて設備の自動化を促したり、シニアや女性の活躍を支援したりしている。ものづくり企業として世界経済の影響を受けやすい構造となっているので、産業構造もバランスをとっていききたい。

Q 県外の学生に地元企業への就職を促進するため、他の地域に先駆けて導入する「就職・移住支援アプリ」は、移住サポート機能もあるとのことだが具体的な概要は。

A 移住やUターンアンケートを見ると、仕事も大事だが、生活をどう充実させるか、ワークライフバランスがテーマとなっている。アプリは、中小企業が参加しやすいよう料金を低価格に抑え、企業情報だけでなく南加賀全体の魅力を発信するものである。

新田 寛之(にいた ひろゆき)議員

一括質問

基地周辺対策について

◆住宅防音工事について

Q 小松市内における平成29年度決算はどうだったか。

A 金額ベースで5億4300万円、件数は552件であった。

Q 職人さんの高齢化や廃業による人手不足が大変懸念されている中で、平成30年度予算執行状況はどうか、平成31年度の見通しはどうか。

A 平成30年度は、75歳以上の方だけが住んでいる世帯や、家未就学児を養育している世帯等からの申請があった場合、申請から2週間で工事着工となる空調復旧工事の優先措置が小松市で実施され、その執行件数は52件だった。皆さんとともに要望した結果、平成29年度より予算規模は増えたが、11月末現在で95%の執行率であり、工事遅れなどはないと見ている。現状の執行額は9億4600万円、執行件数は982件である。

平成31年度の見通しは全くわからないが、防衛省や財務省へ出向き要望している中で、何らかの形で答えが返ってくると思っている。

◆スポーツマイレージ事業について

Q こまつ版スポーツマイレージアプリを開発し、スポーツ全般、ウォーキングやスポーツ観戦から介護予防事業、特定健診なども含め、市民が健康維持増進を楽しく図れる新たな仕組みを構築してはどうか。

A 石川県では、県民がスポーツに親しむきっかけづくり及び継続した運動習慣づくり促進を目的に、スマートフォンを活用したポイント事業、「いしかわスポーツマイレージ事業」を構築中である。ポイント付与の対象は、「する・観る・支える」スポーツ活動のほか、健診受診などが予定されている。

本市での「する・観る・支える」スポーツ活動において、県が取り組む、いしかわスポーツマイレージ事業の活用を促進し連動させることで、市民が楽しく健康づくりに取り組める仕組みを関係機関とともに構築していきたい。その際、より幅広い年齢層の市民が参加できるよう工夫し、事業の啓発に努めていきたい。



吉村 範明(よしむらのりあき)議員

一括質問

これからの子ども教育とまちづくりについて

◆本市におけるこれからの子ども教育について

Q 子どもの順調な育ちを考え、幼児教育分野と小学校の接続に対する共通理解及び取り組みを鑑み、これから全幼児教育施設と小学校との接続部分に対して、早々に教育分野の部署を再編するかプロジェクトを立ち上げるべきだが、考えを示せ。

A 教育・保育施設と小学校の代表者等が、幼小接続のあり方、教育・保育の内容や指導方法等について、相互理解を深める機会を持ちたい。

Q 他地域では小規模校に対し教育課程の特例制度を利用して特色ある取り組みを実施し、効果を上げているが、考えを示せ。

A ICTの活用や英語教育の充実などに努めてきた。「主体的・対話的で深い学び」が実現できる教育環境の構築を地域とともに進めていきたい。

◆高校生が想う本市の課題について

Q 高校生は情報発信が重要だと言っている。今後の展開は。また、高校生や学生を交えたプロジェクト

ームを立ち上げるべきだ。

A SNSの新機能の活用などを考えている。15歳以上を対象とした市政提案モニターを募集しており、効果的なPR方法についての意見を求める機会を設けたい。

Q 北陸新幹線小松開業に向け、生活の足のほか、観光周遊路線を構築すべきだ。

A 通常の生活路線に加えて、木場の回遊バスや安宅へのEVバスの延伸などの路線を設定してきた。来訪者の多様なニーズに対応できるよう、多言語対応のAアプリでソフト面での利便性向上にも努める。

◆まちナビサインについて

Q 増設の場所は。

A こまつAZスクエアや公立小松大学などの施設へ対応していく。

Q 以前設置したサインは、劣化や滑りやすかったが、今回の材質は。また、設置後の更新計画は。

A 歩行者の安全に配慮した材質を検討する。定期的な点検により更新の必要性を見極めていきたい。



浅村 起嘉(あさむらきよし)議員

一括質問

みんなにやさしいまちづくりを

Q 障がいがあっても外出できるやさしいまちにむけて、「みんなにやさしい駐車スペース」整備の状況は。障がいのある方と意思の疎通がとれ、車いすの方も利用しやすい店づくりのための支援を。

A 公共施設に約150台分整備されている。民間施設では、病院や銀行などで年々広がっている。店舗改修等の助成制度もあり、手話や点字など多様なコミュニケーション手段の利用促進も図りたい。

Q 最期を迎えるためにやさしいまちにむけて「お見送り手続きデスク」の状況はどうか。また、ひとり暮らしの方の終活への支援を。

A 8割の御遺族が手続きにいられた。1カ所で手続きできて助かったなどのプラス評価が多かった。はつらつシニアかんじん帳にエンディングプランの追加を検討したい。



お見送り手続きデスク

Q 子育て家族にやさしいまちにむけて、カブツキーランドや航空プラザの利用状況はどうか。屋外の施設も充実してほしいとの声もあるが、木場潟公園はどうか。

A カブツキーランドは1周年で10万人、航空プラザは毎年25万人を超えている。木場潟公園に里山の遊びを体験できる樹木遊具などの整備が計画されている。

◆小松市の来年度の教育について

Q 学校での外部人材の活用について、成果と来年にむけての考えは。

A 200人余りに支援いただき、教育の充実や多忙化改善に成果があった。次年度も幅広く人材を集め、教育環境の充実を図っていく。

Q 中学校道徳の日本教科書には懸念すべきことが多く指導には留意していただきたい。採択の組織や公開の検討を強く要望する。

A 市の伝統文化や偉人の教材を活用し、道徳性が身につく指導を行う。今後も静ひつな採択環境の確保の観点から非公開とする。

Q 通学のランドセルが重くなってきているが学校の対応はどうか。

A 辞書を置いて帰り、絵の具セツトは特別教室に保管している。



梅田 利和(うめだとしかず)議員

一括質問

奥の細道紀行330年記念事業

◆奥の細道の歴史文化の魅力を活用した観光施策について

Q 奥の細道など、小松の歴史文化の魅力をどのように活用し、観光施策に繋げていくのか。

A 奥の細道ゆかりの地の自治体と連携し、日本遺産認定を目指している。認定となれば、小松市の文化の高まりを期待できる。様々なゆかりもあるので、歴史ツアーなどをしていきたい。



芭蕉も感嘆した那谷寺の石山

◆おくのほそ道風景地ネットワークについて

Q どのような組織で、今度の総会を何をするのか。

A 「おくのほそ道の風景地」として国名勝に指定された自治体が連携して風景地の保護や魅力発信を行う組織。総会は、2019年11月に小松で開催。記念事業などを予定している。

Q 330年記念事業はどのようなものを予定しているか。

A 記念講演会や奥の細道アプリの開発などを予定している。

Q 全国の関係自治体では330年記念事業をどのように計画しているか。

A 小松市も含め、スマートフォンを使ったスタンプラリーなどの全国規模の事業が検討されている。

◆小松ビジュアル俳句コンテストについて

Q 8回目の開催であるが、記念事業として前回までの違いは。

A 330年記念にふさわしいテーマを設定し、特別感のある大会にしたい。

Q ビジュアル俳句コンテストの今後の展望は。

A 全国区、世界への発信を目指す。また若年層への拡大や、英語俳句へ枠を広げ、海外発信にも力を注ぐ。



吉本 慎太郎(よしもとしんたろう)議員

一括質問

「住みよい小松」を考えていく

◆小松市の移住支援について

Q 移住を考える方々が小松市に求めるものは何なのか。そのニーズ調査を行っているか。

A ニーズについては国を初め専門機関や民間において調査が実施されている。移住に当たり重視する点は、仕事、生活コスト、公共交通の利便性、医療・福祉施設の充実である。引き続き子育て支援や教育環境、福祉の充実、土地利用の規制緩和など、移住促進に向けて総合的なまちのレベルアップに取り組んでいく。

Q 労働雇用対策の一環として、スマホによる就職・移住支援アプリを制作するとあるが、本来、就職支援と移住支援は似て非なるものである。移住支援に特化したアプリや紙媒体を制作し、移住支援のレベルアップを図るべきではないか。

A 小松市定住促進パンフレットを作成し、東京や大阪の石川県の出先機関に配布し、制度を紹介している。また、移住交流サイト「こまつ日和」を開発し、定住・移住に向けた情報発信をし、アクセス数は月平均1313件となっている。

◆運転免許証の自主返納について

Q 返納しやすい環境づくりのため支援内容の見直しが必要である。支援品の一つである、らく賃パスポートの永続的使用ができないか。また、返納後の交通手段の選択肢を広げる意味でもタクシー利用券の導入を。

A 運転免許証自主返納者への特典の内容については、共同実施団体である小松市交通安全協会連合会と協議しながら進める。

Q らく賃パスポートの利用率向上のためにもバス路線の弾力的な見直しと、屋根・ベンチの設置等バス停の整備を。

A 路線の編成や維持については、小松駅と市民病院を拠点に市内の商業施設等へ訪れやすいよう鋭意努力している。バス停の待合環境については、粟津温泉・木場湯・安宅の間の観光施設周辺のバス停3カ所を整備した。

